

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	0170504153		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘Ⅲ		
所在地	北海道札幌市白石区北郷5条9丁目8-33 (電話) 011-879-5611		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】 (平成20年5月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	30日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15	人
職員数	17 人	常勤	10人,	非常勤 7人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	12,000～19,000 円	
敷金	有 (195,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要 (5月22日現在)

利用者人数	14 名	男性	4 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74.8 歳	最低	57 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり内科クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福寿荘Ⅲの運営法人ライフアートの代表者は、社会福祉・高齢者福祉の視点に立ち、認知症グループホームの必要性・重要性を早い段階より提唱し、認知症ケアの先駆者として、事業所を設立し、先進国の視察や研修で研鑽を重ね、現在に至っている。当事業所は、日本で唯一の、若年性認知症の利用者を対象にしたユニットもあり、利用者本人の生きる生命全体を包み込むように支え、その人らしく、より豊かな生活の構築を目指し、利用者の心に寄り添いながら、職員全員が一丸となりケアに取り組んでいる。家族と過ごす時間を大切に支援している点や、医療と連携し、緊急時における体制を強化している点も特徴である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題であった、市との連携については、現状に即した連携を図るための取り組みと働きかけを積極的に実施しており、また、災害対策については、地域との連携体制を構築し、継続的な訓練実施の考えを示すなど、課題に対し真摯に取り組んでいる状況である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者及び管理者は、評価のねらいや意義を職員に周知し、全員で協議しながら自己評価に取り組んでいる。また、自己評価の実施にあたり、常に、高い目標を掲げ、ケアサービスの質の向上を目指すよう取り組んでいる。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、平成18年8月に設置し、2ヶ月に一度の定期開催を行っている。会議では、事業所の運営やケアサービスの状況を報告し、意見討議を行っている。会議ごとにテーマを持ち、双方向的な会議になるよう配慮し、協議内容を運営に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には、気軽に意見や不安を伝えてもらう雰囲気作りに努めており、家族連絡ノートも活用して、要望等の積極的な聴取を行い、家族と協力体制を築きながらケアサービスに取り組んでいる。表出された意見は、検討をして運営に反映している。また、事業所内部・外部に苦情相談窓口を設けるなど、体制を整えている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、清掃活動や資源回収等、町内の活動に参加をしている。消防団の子どもたちの訪問やボランティアの受け入れ、近所の方からの草花のおすそ分け等、地域住民との自然な交流を深め、地域と密着した暮らしが定着しつつある。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人を大切に、ささえ合う心、安心して暮らせる社会づくり」を法人理念に掲げ、運営者は専門家と共に、事業所理念の策定に取り組んでいる。また、ケア理念の基本方針を具現化し、地域に根ざした運営を展開している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日常のケアサービスにおいて、理念の実践に努めている。日々の中で、理念を反映しているかどうかを厳しく点検・確認をし、理念を掘り下げ、具体的なケアについて、意見統一や話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動や資源回収等、町内の活動に参加している。消防団の子どもたちの訪問やボランティアの受け入れを始め、近隣住民から花のおすそ分けを受けたり一緒に庭を眺める等、地域住民との自然なつき合いや交流も深まり、地域と密着した暮らしの基盤が整いつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は、評価のねらいや意義を職員に周知し、全員で協議をしながら自己評価に取り組んでいる。自己評価の実施にあたり、常に高い目標を持ち、運営やケアサービスを厳しく点検し、質の確保や更なる向上を目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年8月に設置し、2ヶ月に一度の定期開催を行っている。会議では、事業所の運営やサービスの現状報告を基に意見討議をするとともに、会議ごとにテーマを持ち、双方向的な会議になるよう配慮している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、事業所の運営やケアサービスに係わる情報交換を行いながら、市主催の連合会へ参加し、研修の受け入れ等を積極的に実施するなど、現状に即した連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理等の定期的な報告はもとより、随時、ケアプラン・生活記録を家族に提示し、きめ細かく利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。家族の訪問状況に合わせた報告の仕方を工夫し、家族が知りたい点に配慮しながら取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には、気軽に意見や不安を伝えてもらう雰囲気作りに努めるとともに、家族連絡ノートを活用して要望等を記載してもらい、運営やケアサービスに反映している。また、事業所内部・外部に苦情相談機関を整備している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	専門職の配置や、年俸制を導入するなど、労働環境を整備し、異動を最小限に抑える努力をしている。また、常に全職員が利用者の状態を把握し、やむを得ない異動等でのダメージの緩和に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、高品質のサービス提供を具現化し、人材育成に力を注いでいる。職員個々に応じた段階的な研修をはじめ、働きながら技術や知識を身につけていくための方策や、職員が日々の体験を学びにつなげていくための機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者間のネットワーク作りや連携に努め、研修や交流等を通じ、協働しながらサービスの質の向上に努めている。また、管理者は、市・区の連絡会に積極的に参加し、情報交換等を行うなど連携に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭への訪問・事業所見学・併設の通所介護事業所の利用等を通じ、職員との顔馴染みの関係を作り、事業所の様子を知ってもらうなど、利用者本人の不安を和らげ、安心感を得てもらおう配慮や、個別の利用調整を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし支えあう」意義を絶えず追求しながら、常に、利用者の立場に立ち、本人の思いを受け入れ支え合い、暮らしの中でお互いを分かち合える関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常に一人ひとりの思いや意向に関心を払い、把握に努めており、利用者との対話や、非言語的コミュニケーションを交えて、本人本位に検討をして支援に結び付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を活用しており、現在の課題や必要な支援、家族や本人のニーズを含めて検討し、担当者がまとめ、カンファレンスで情報を共有しながら、チームとして計画を作成している。本人の暮らしを支える、利用者主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と照合した記録方式を採り、利用者の状態をきめ細かく生活記録に示しており、定期的見直しの他、日常的にカンファレンスを行い、実情に応じた見直しを実施している。職員ノートや申し送りで、その時々のお気づきを共有し、変化の兆しに対応していくための見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々のお要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じた受診時の送迎、外出理美容の支援、外出・外泊、鍼灸・マッサージの支援受け入れ等、日々変化する状況にも対応し、臨機応変に柔軟なサービスを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医への受診のほか、定期的な協力医の往診や看護職員による健康管理支援、他の診療科への円滑な受診等、適切な医療を受けられる体制を確保している。また、日常の健康状態を詳細に記録し、医療機関への適切な情報提供を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期生活支援に関する覚書」指針を定め、契約取り交わしの早い段階から、家族・本人に説明し、意向を確認して同意を得ている。状態変化時など、そのつど意向確認や話し合いを行い、関係者間で方針を共有している。より良い支援実施のため、看取りケアと重度化対応マニュアルを整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、注意深く扱うべきプライバシーや個人情報の保護について、徹底した対応に努め、言葉や語調等にも十分配慮をし、個人の尊厳を守る暮らしの支援を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに職員が合わせており、安全に配慮しながら、本人が今したい事や過ごし方等の、希望に沿った支援を行っている。利用者は、思いのまま自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しい食事づくりに努め、食材を工夫し、味だけではなく、目で見ても楽しめる献立に配慮している。寿司作りをしたり、食器洗い・後片付けなど、利用者の力を活かしながら、職員のさりげないサポートの下、一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴が楽しめるよう、利用者の意向や思いを確認し、個別に合った支援をしている。利用者の状態を踏まえ、声かけに配慮するとともに、利用者が安心感を持てるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事等の役割や楽しみごとを通じ、充実感や達成感が味わえ、一人ひとりの有する力が発揮できるよう支援している。利用者の気持ちを重視し、自然の流れの中で生きる事への支援に結びつけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本位の個別外出支援を行っており、利用者の状態に応じて、外出を楽しめる支援の工夫を行っている。散歩や外食のほか、家族と共に外出する機会も作るなど、豊かに暮らすための外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭と同様、夜間帯は防犯上の理由により施錠をしている。日中は施錠をせず、職員は利用者の状態把握に努め、見守りや連携・安全面への配慮をして、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年2回の避難訓練を実施している。職員は、自主点検シートを用い日々防災点検を行い、緊急時に備えている。平成20年9月には、町内会と連携し実践的な避難訓練を計画している。	○	地域住民と連携を図り、実践的避難訓練を計画している。災害時の連絡や避難誘導を、あらゆる状況の中でも行えるようトレーニングを積み重ね、具体的な確認や点検事項を、事業所自らの継続課題としてあげている。今後も、継続した取り組みに期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、栄養摂取や水分補給の支援に努め、職員間で必要な情報を共有し、一日全体を通じた摂取量を把握している。また、食が進むような献立の工夫や、利用者の嗜好に合わせた個別の食の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広々として落ち着いた雰囲気である。家族とゆっくり過ごせる多目的ルームを設置し、和室やセミパブリックスペースも充実させ、利用者が好みの場所で過ごせる工夫をしている。採光の配慮や、心地よいオブジェの装飾など、居心地の良さに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望による居室作りを支援している。使い慣れた家具を持ち込み、家族からのプレゼント品や写真などを思い思いに飾りつけるなど、安心して過ごせるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。